

第5回関東 MISt 研究会 開催報告

平成 27 年 9 月 26 日(土)に JP タワーホールカンファレンス(東京都丸の内)にて第 5 回関東 MISt 研究会を開催いたしました。今回は参加者の事前登録制を取らなかったにも拘らず、関東地区内外を合わせ 106 名のご参加をいただき、盛会のもとに無事終了いたしましたのでご報告いたします。

特別講演 1 では大阪市立大学代謝内分泌内科の今西康雄先生より、日常診療で頻繁に直面する糖尿病や腎不全透析患者などの続発性骨粗鬆症に関する病態を中心としたご講演を内科医のお立場よりお話しいただき、骨代謝と心血管病変との重要な結びつきなどの新知見を得ることができ、たいへん勉強になりました。特別講演 2 では山梨大学整形外科の江幡重人先生より、先生ご自身の多数のご経験に裏打ちされた XLIF のポイント、bone material として allograft の有用性、骨癒合促進目的での PTH 術後併用療法など、こちらもたいへん有意義なご講演を賜りました。

ショートレクチャーは関東 MISt 研究会世話人の中から現在最も脂の乗った中堅の先生 3 名にお願いし、松戸市立病院脊椎脊髄センターの宮下智大先生から「腰椎変性すべり症に対する CBT スクリュー併用 facet fusion」、練馬総合病院整形外科の塩野雄太先生より「胸椎 PPS 設置における Groove entry technique」、そして東京慈恵会医科大学附属第三病院の篠原光先生より「XLIF corpectomy の適応、コツ、ピットフォール」をそれぞれレクチャーしていただきました。いずれも非常にわかりやすい内容の講演で、参加された若手の先生からは今後より安全な MISt を行っていくにあたり、手術手技の選択肢が広がったとの感想を頂きました。

また今回の主題である「MISt の合併症と予防策、リカバリーショット」では、ぞっとするような刺激的な画像とともに、その状況からいかにしてリカバリーさせたかといった大変貴重な症例、ご経験を正直にご呈示いただき、まさに本会の目的である「学閥を超えて本音で語る。」「情報を共有する。」といった趣旨が達成できたものと感じました。

さらに今回は関東 MISt 世話人の中からベテラン 3 名の先生方に審査委員をお願いし、主題 8 題、一般演題 6 題の中から最優秀賞を選定させていただき、東京大学整形外科の村瀬修平先生による「腰椎後方椎体間固定術における椎体間 cage の前方脱転症例の検討」のご発表が best paper award に表彰され、会を通じて最も活発かつ適切な質疑をしていただいた練馬総合病院整形外科の塩野雄太先生に best discussion award が素敵な副賞とともに進呈されましたことを併せてご報告いたします。

当初は 19 時終了の予定でしたが運営事務局の不慣れな点もあり終了時間が 40 分遅くなってしまいましたことをお詫び申し上げます。しかしながらその後の懇親会、2 次会は深夜にまで及び、会場が東京駅直結であるにも拘らず終電車ぎりぎりまで親睦を深め合えたことはたいへん有意義なことでした。

次回の第6回関東MISt研究会は2016年1月16日（土）に今回と同じJPタワー東京におきまして日本鋼管病院脊椎センター大森一生会長のもとで開催される運びとなっております。会員の皆様におかれましては引き続き振ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

第5回関東MISt研究会 会長
東邦大学整形外科学教室
和田明人

